



八月の俳句

(2 0 2 2 / 0 8)



目次

| | | |
|---------|--------|--------|
| たべもの俳句 | モノロク俳句 | 歳時記俳句 |
| 13 ↳ | 8 ↳ | 1 ↳ |

< 八月異名 >

秋風月・雁来月・観月・建西月・木染月・壮月・
竹春・仲秋・月見月・燕去月・葉月

(宇佐美保幸)メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

猛暑なり地下ホームに闇があり
猛暑なり水道水も生ぬるく

酷暑なり頑張れ耐えろ庭の鉢
大酷暑ゲリラ雷雨に突風も
歳とらずグリコの男酷暑なり
酷暑なりボレロのリズムやや歪み
抜歯されさらに寂しく酷暑日に
この酷暑終わり地獄か極楽か

炎天やされど冷たき東京は
炎熱にゆらゆら揺れる都電かな

ひまはりの魂魄残る立ち枯れて
ひまわりのハンサム顔をさがしけり
出る杭は打たれてしまう向日葵や



愛国はうとまれ日本百日紅
百日紅熱中症には強かりき
百日紅死ぬときが来る人は死ぬ
百日紅二心ありきか赤と白

原爆忌シャツターアートで町おこし
百日紅真白き花も原爆忌
百日白幻の雪真夏なり

倦怠のジャズボーカルや夏終わる
消せるもの消せないものも夏終わる
冷房につかれて起床今朝の秋
リベラルや何もたらすや秋に入る

朝顔は一花一花に多様性
一鉢の朝顔の花いくつ咲く
少子化を無縁に花を朝顔は
朝顔が虫を誘惑光満つ



朝顔を一鉢選び玄関に
コーヒーを朝顔映ゆるカフェテラス
朝顔のダークブルーに今朝も雨
朝いちのあいさつそれは朝顔に

そちこちに湿布を貼って涼みおり
ダブルベッド一人の夜は涼しくて

秋風を待ちに待ちたる猫の髭
秋風がそこまで来たと猫のひげ

リベラルの無駄骨よりも紅芙蓉
やさしさもどこか限界紅芙蓉
大きな葉大きな花や紅芙蓉
こまごまと移ろい早き芙蓉咲く

時計かと言われてやはり時計草
ミニカーをいくつ並べて盆明ける



ハイビスカス吾に無用の恋の花

芋雑炊食べて育った敗戦忌
終戦忌ゲリラ豪雨は頻繁に
海洋ゴミどこの国から終戦日
とらうまになるな日本よ敗戦忌
敗戦日処方薬が多かりき

空に向けしべを突き出す花木槿
木槿咲くジャズドラムかな破調かな

稲の花神秘に受粉風媒花
稲の花しばし待っての塩むすび

はまなすや北の大地にわかれあり
黄のカンナぼってり咲いて夕日浴び



富士裾野砲弾後に草茂る
蕎麦の花三角四角五角かな
蒜山に蕎麦の花咲くころとなり

マスコミは支援支援と法師蝉
尽きるまで命継ぐためつくつくし
ソリストと威張るがごとく法師蝉
夏終わり悔し泣きする法師蝉

白桔梗敗戦などを記憶して
うろ覚え昭和歌謡や赤のまま

夕化粧なぜか路地にて映えにけり
四時の花勝手気ままに夜となる
顔廃か都会の路地の夕化粧
朝になり白粉花はひきこもり

きちきちのひねりは体操鞍馬かな



暑き夜それでも季節虫の声
アナログもデジタルさえも残暑かな
降圧剤効くの効かぬの残暑なり
ぎらぎらの庭を徘徊蜥蜴かな
八月も無いものねだり老いてなお

新涼やメイクの眉の彩変えて
新涼やスカイツリーの空の彩
新涼の淋しげな貝沙美の浜
新涼や回転寿司のネタ変化
新涼や孫の背伸びるまだ伸びる

風来る莖まで黄なり女郎花
平安の頃より艶し女郎花
ひよろひよるとされどすこやか女郎花
女郎花露に乱れてあだなれる

子の描く太陽いびつ秋暑し



秋暑し上げ下げせわし兜町

八月尽幻多く年老いて
八月やこのまま過ぎて未練なく
八月尽畑の西瓜たそがれて



モーロク俳句

モーロクし脳味噌欠けて熱帯夜
モーロクしされどまんじり熱帯夜
熱帯夜無意識の森モーロクし

モーロクし冷房疲れ不眠症
モーロクし愛憎無縁蛍草

モーロクは機密情報草いきれ
モーロクし近寄り禁止草いきれ
モーロクし耐え忍ぶこと草いきれ
草いきれ筋を通してモーロクす

空蝉やめぐりめぐってモーロクす
モーロクし拾らふ空蝉朝散歩
モーロクし空蝉ひろふ日もありて



モーロクし涙も出ない原爆忌

モーロクし百歳の夢夏ゆくや

モーロクしの顔が鏡に秋となる

モーロクし内蔵お休み今朝の秋

モーロクし朝顔と競う早起きを

モーロクし朝顔の種採集す

朝顔のごとき無欲にモーロクし

モーロクしきょう明日あさって朝顔や

モーロクしこころの旅の花木槿

モーロクしひとり言めく花木槿

モーロクし反骨捨てて紅芙蓉

やさしくもなれずモーロク紅芙蓉

モーロクし時空ゆがみし秋初め



モーロクし条理不条理桃を剥く
モーロクしされど今生き桃の種

モーロクし消えたくも生きひぐらしや
モーロクし繰り返すだけ秋の蝉
モーロクし消えさるのみの秋の蝉

モーロクし違和感つのる終戦日
モーロクしぺたんこ心終戦日
モーロクし記憶も遠く終戦日
モーロクし何を指すか敗戦忌

モーロクし十万億土益明ける
モーロクしむかし健脚葛の花

人難を超えてモーロク生身魂
モーロクしされど矜持を白桔梗



モーロクし嘘をつくなと鬼やんま

モーロクす地球は回る稲の花
モーロクし気づかず過ごす稲の花

モーロクの団塊世代法師蟬

モーロクし鳴き立て死すか法師蟬

モーロクし浮き沈みあり法師蟬
浮き沈みありてモーロク法師蟬

秋めくやモーロクすれば傷開く

モーロクし黄昏れ迫る蜻蛉や
モーロクし刹那刹那の蜻蛉や

モーロクし秋風待ちて猫の髭

モーロクし人生こぼれこぼれ萩



モーロクし好む暗さの水引草

モーロクし残暑を恨み引きこもる
モーロクし続く残暑に鄙びれて
モーロクしがんばっている残暑かな

蓼の花人生長くモーロクす

新涼やモーロクすれど一呼吸
モーロクし明日への生氣新涼や

八月尽五体揚力モーロクし
モーロクしおいてきぼりの八月尽
八月三十一日モーロクすれば淋しき日
モーロクしおいてきぼりの八月盡



たべもの俳句

夏の朝豆腐さいの目豆腐井
激辛の蒙古湯麺夏本番

熱帯夜今朝もおかゆに梅干しを
深夜ラジオ何をつまみに熱帯夜

朝食に大きな梅干朝ぐもり
熱帯夜朝の味噌汁辛味噌で
八月はターメリックで味噌汁を

魔法瓶麦茶冷たし無人駅
目玉焼き端反り返り秋に入る

とりあえずこのままでよし西瓜喰う
大西瓜今日は何粒種を食べ



灼熱に育った西瓜冷やしけり

シシトウをちくわと炒めビール飲む
混ぜご飯みようがとしらす風味良く

ペペロンチーノしらすたっぷり夏休み
万願寺唐辛子焼き焼き浸し

なす大根いんげんかぼちや夏煮しめ
ホットサンド二つに分けて今朝の秋

夏バテに庶民はやはりレバニラで

みずみずし岡山の桃いとほしむ
白桃や食べてふるさと岡山を

桃食うて苾までかじり歯を痛め
仏壇の桃をいただき供養する



白桃のみずみずしさは真実か
白桃を食べて香身の余韻かな
白桃を抱いて眠る今朝の夢
ふるさとの白桃匂う夜の卓

八月の手抜き夕食塩むすび
苦瓜の苦さを知りて沖繩を

キンキンの刺身こんにやく遠花火
さりげなく枝豆添える晩酌に

蜜豆や愛情切れ目いつの日に
蜜豆や限界ありき愛情も

ほっこりと長芋ステーキ麺つゆで
もろこしもすだちのタレでエスニック

残暑かな納豆ごはん糸切れず



夏バテに梅が決め手の梅和えを

レモン塩白湯飲んで夏バテに
新涼やみようが味噌焼きおつまみに

やや小ぶり炒めて蒸して秋なすや
秋茄子を焼いて吟醸あてにする

秋近し食欲戻る海鮮丼





